

海辺のアンコントロールデイ、熱反応で姿を現したモブ二人――

「……559、あのバカども……捕まえて」

「待ちなさいイータ、このまま二人を叩き出したいのはわかるけど
みんなの顔を覚えられて妙な噂を流されても困るわ」
「私なら記憶を消す薬も用意できるけど……」

「その薬の副作用は？」

「……多分大丈夫」

「一応シドのお友達だから万が一のことがあつては駄目よ

私は前にシドの知り合いということ面で面識があるし
不本意だけど穏便に帰ってもらいましょう」



「二人とも、ここで何をしているのかしら?」

「あ、アルファさん! お久しぶりです!」

「こんな綺麗な人ばかり集めて何をしてるんですか!」

「今ここでミツゴシのリゾート広告の撮影にきているの。」

「私も含めて彼女たちはその仕事で来たモデルね」

「どうりで綺麗な人ばかりなわけだ!」

「それで会社規定の機密情報もあるから見られると少し困るのよ……」

「立ち入り禁止の看板も立ててあるけど気付かなかったかしら?」

「ぜ、全然気付きませんでした」

「まあそれはそうよね、実際立ててないんだし」



「どうやってここまで来たのかは知らないけど
今はここから出ていってもらいたいの、わかるわよね？」

「そ、それはわかりましたけど」

「僕たちのこのリビドーはどう抑えればいいんですか!？」

「アルファ様、やはりここで始末しておきましようか？」

「はあ……仕方ないわね、事を荒立てたくないし私がなんとかするわ」

「二人とも、ちよつとあそこの岩影まで付いてきてくれる？」

「みんなは業務に戻っていいわよ」

「アルファ様……何をするつもりなんだろ」



「すんすん……はあ……まったく、いきなり性器を押し付けてどういっつもりなの?」

「すすみません!僕達のち○ぽがもうさっつきからギンギンで痛くて痛くて……どうにか鎮めてもらえませんか!?」

「男性の身体にそれ程詳しくないからよくわからないし、私に何ができるのかわからないけど……これが終わったらもう王都へ帰るのよ」

すはあー♡

くん♡
くん♡
ふう♡

むら
むら

すん♡
ビク

ドキ♡
ドキ♡

「はい!じゃあとりあえずそのままち○ぽの臭いを嗅ぎ続けてください!」

「こんなことで何が良くなるのかしら……」

「いやーもう凄く助かりますよ」

「もつと顔を擦り付けてくださいね!」

はあ♡



「グングン……うっ、それよりあなた達ちゃんとここを洗ってるの？
会った時から凄くオス臭い匂いを撒き散らしてるわよ」

「お、オス臭いって、そりやあやりたい盛りの男子学生ですからね」

「はあ……くっさ……すうは……っんっ……」

二人ともこんなに大きくして……これで治りそうなの？」

「そ、それがですね……」

「痛たた……まだ治らないようなのでもう直接口に咥えてもらっていいですか？」

「え……」

おっ

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

くん

キュン

キュン

くっさ

ぐん

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「馬鹿な事を言わないでちようだい。だ、駄目だからね、絶対」

はー





ぐほ



ニャー♡

ズキキ♡



フー♡

フー♡



ズズズ

れろ♡
チホッ

ブルブル♡

ぐほ

















